

平成26年度の志津見ダムにおける アオコの発生状況

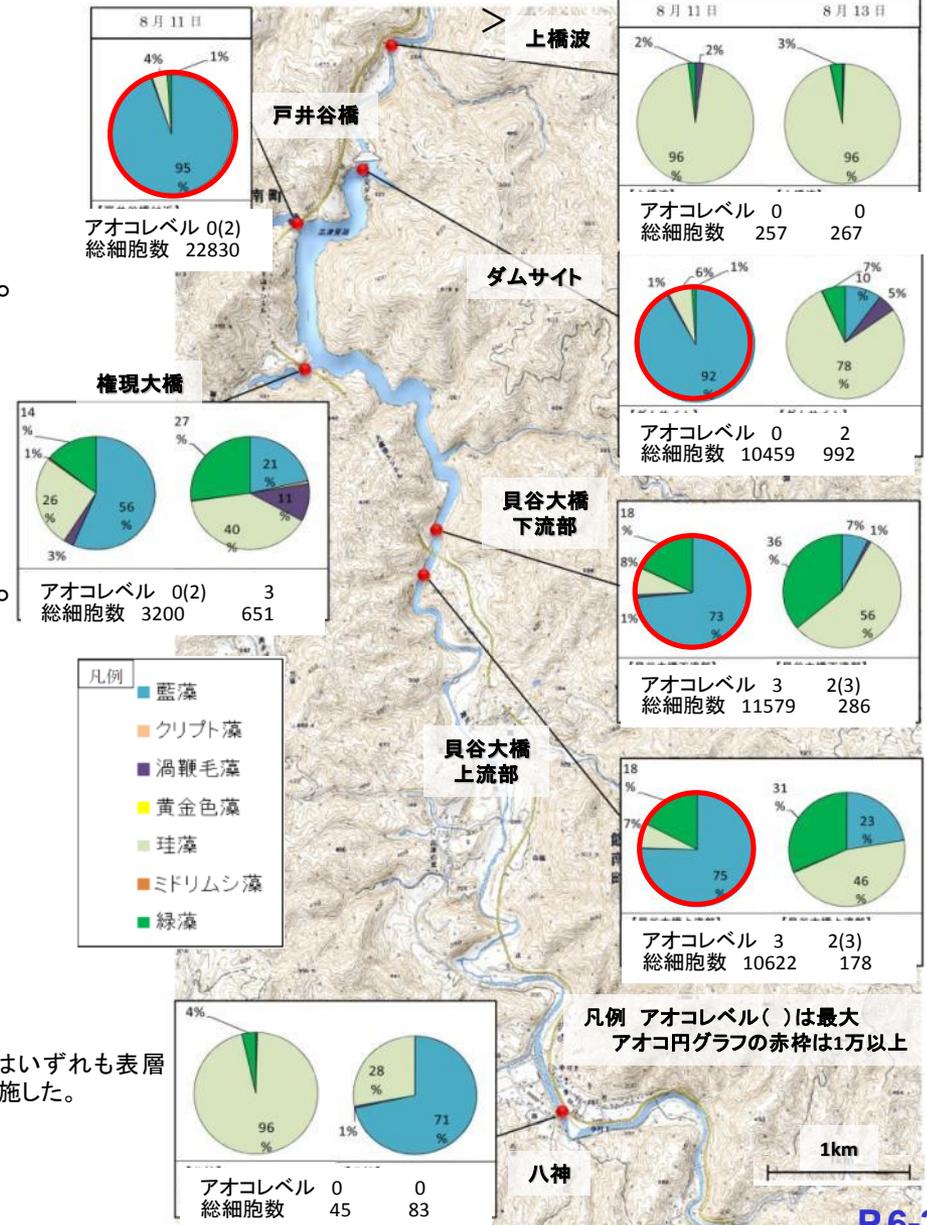
アオコの発生状況<調査結果>

- 平成26年8月11日～22日にアオコが発生した。
- 植物プランクトン、水質調査を8月11日、13日に実施した。
- ダムサイト～貝谷大橋間でアオコが確認され、11日は13日よりも総細胞数が多かった。藍藻類であるミクロキスティス (*Microcystis*) が優占していた。
- アオコレベルは8/15まではレベル3（平均）まで上昇したが、8/18以降はレベル1に低減した。
- 上橋波と八神ではアオコは見られなかった。



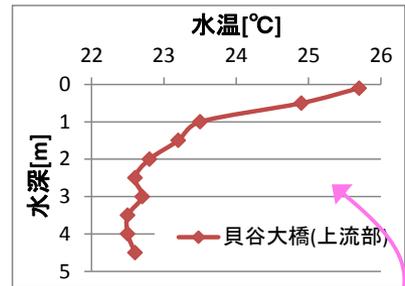
<8月14日 ダムサイト(アオコレベル 3)>

<アオコレベル(平均)と植物プランクトンの割合・総細胞数(細胞/ml)>

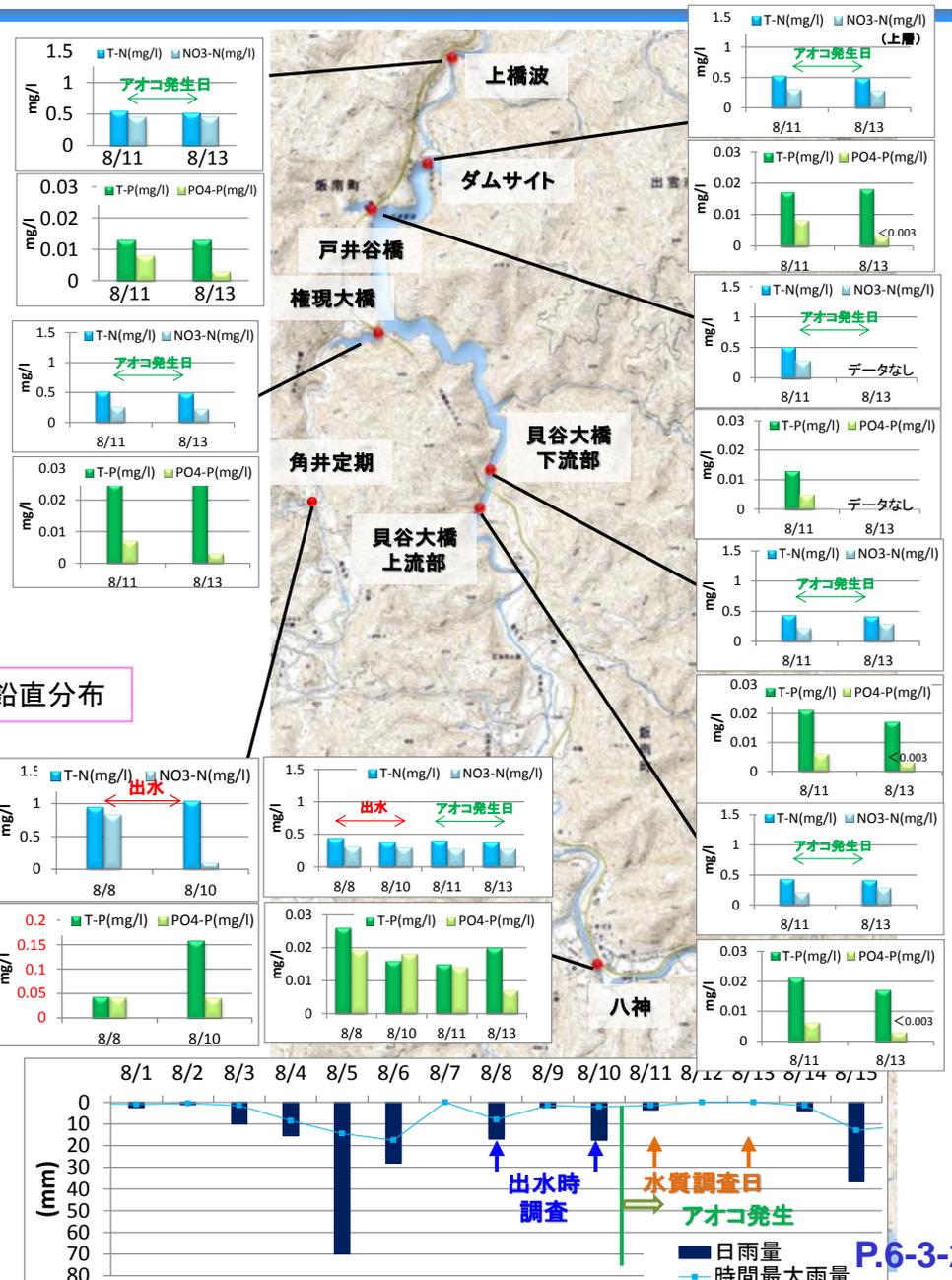
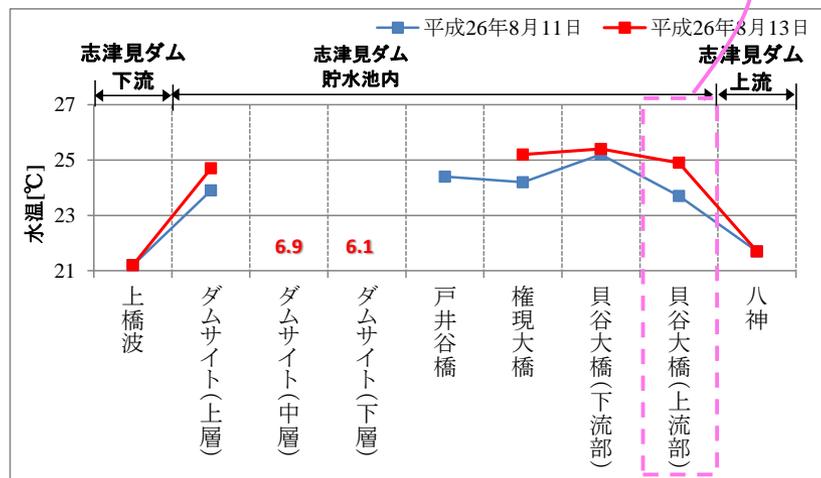


アオコの発生状況<調査結果>

- アオコ発生時の志津見ダム貯水池の水温は約25℃であった。8/11にアオコレベルが3と最も高かった貝谷大橋では、水温が25℃を超えていた。
- 8月11日のP04-P濃度は貯水池全体で0.006~0.008mg/Lであったが、13日には、P04-P濃度が小さくなっていった。



8/13鉛直分布



アオコの発生状況<評価と方針>

評価	<ul style="list-style-type: none">志津見ダムで平成26年に確認されたアオコは、アオコレベルは最大で3であり、発生の翌週にはレベル1に低減した。優占種はミクロキスティスであった。過去の優占種は平成23年度のフォルミディウム、平成24年度のミクロキスティスであり、今年度は2年前と同じであった。例年夏季のPO4-P濃度は0.003mg/L未満(定量下限値)であるが、8月11日は0.006~0.008mg/Lと高かった。しかし、13日は0.003mg/L未満であった。よって、8月11日の前に出水があったために高い濃度のリンが流入して、アオコ発生の引き金になった可能性がある。平成23・24年と今回の平成26年ではアオコレベルは異なるものの、その範囲や発生状況はほぼ同じであり、同様の要因で発生したと推測される。選択取水設備の運用により下流河川ではアオコの発生による被害は確認されていない。
今後の方針	 <ul style="list-style-type: none">アオコの発生又はそのレベルが上昇すると、ダム貯水池では景観の悪化・悪臭発生などのダム利用上の支障が出る可能性がある。アオコが発生するメカニズムを検証し、アオコによる影響等について必要に応じて対応策などを検討する。